

大き葉の下にやすめり茅舎の忌

田中裕明（『夜の客人』）

川端茅舎の忌日は、七月十七日。俳句の季語に忌日はたくさんあるが、「青」「ゆう」の師系では、個人的に関係のあった人か、よほど畏敬する人でなければ詠むべきではないという風潮があった。生前、田中裕明が茅舎について語った言葉は記憶にないが、こうして忌日を詠んでいるということは、おそらく茅舎をかなりリスペクトしていたのだろう。

私も茅舎は大好きな作家なので、こうして忌日の句を遺してくれたことが嬉しい。「大き葉の下にやす」んだ人は作者その人だろうけれど、茅舎への鎮魂の思いがこもっている。それにしても茅舎はほんとうに暑い時期に亡くなったのだなあ。